

節分会祭文

謹しみ敬つて真言教主大日如来两部界会、殊ことに別わいては本尊聖者薬師瑠璃光如来、觀世音菩薩、諸尊諸菩薩、十二神将、総じて薬師堂境内勸請諸仏諸神等内外権実一切の聖衆しやうじゆに白もうして言さく。

伏おもんして惟れば本尊薬師如来は琵琶湖湖南地区鎮護の靈像にして靈驗誠おもんにあらたかなり。開運厄除の本誓ほんぜい、余尊に越え庶民守護の悲願、他誓に勝る靈応是れ高く巨益弥深し。ここをもつて本日節分の吉辰きつしんを卜ぼくして妙供みょうくを宝前に献じて真言密教の密法を修して、法樂を天尊てんそんに供くず。

夫れ真言の密法とは、真言宗開祖の弘法大師のスケールの大きな宇宙的な根幹のみ教えなり。この現実世界に存在する山川草木をはじめ、動物、植物、天地自然しんらばんしやう、森羅万象はことごとくが真言密教の眼まなこから眺めると仏教の教えを説きあかしている經典なり、と弘法大師は説かれています。大自然のなかから仏の教えと直接の説法として聞きとる。つまり、仏の身体、言葉、心を三密といい、この三密は大自然、虚空に満ち満ちている。あたかも大自然は巨大な筆にたつぷりと墨を含ませて描えがき出した仏の世界に他ならない。さら

にあたかも天を蓋ふたとし、地を函はことして、その中間にある森羅万象は、

全て自然が創り出した經典。宇宙そのものを經典として、その中に
仏を見る。この密教の眼まなこをもつてすれば、大日如來の直接の說法
に出遭であっていると弘法大師はお説きになっておられる。ここに本日の
節分会の重大な祈願会式導師の座に就かせて戴き、熊谷俊亮任職
の大師信仰の実践者四国八十八カ所継続巡拜四十一回など、あら
ためて不断の信心を仰ぎ見て、頭が下がる。

最後に拙い一文なれど私も真言密教の一僧侶として大師の自然
の經典の眼まなこを次のように綴る。

厳しい冬に耐えて、生命の躍動する春を喜ぶかのように咲く桜、
愛めでる日が近づく。桜は、秋になって気温が下がると休眠に入り、
その後、冬の低温期を経験して休眠から目覚める。気温が上がれ
ば開花できる状態を保ち、春を待つのである。

古来から「三日見ぬ間の桜かな」という桜に寄せた人生訓話がある。
桜は瞬く間に咲いて、サッと散りゆくところから、人は変化し見違え
るように成長する者もいる。逆に威張っていた者が、真逆さまに落
ちて散りゆく場合もある。この世は「諸行無常」である。万物は常
に変化し、少しの間もとどまらない。人生にはつきつきと問題が起る。
この問題を生きぬくことで、問題のない人生などおよそ無意味であ
る。苦を苦とし引つかからない。楽を楽として腰をおろさない。春分
の道を歩いて、大自然の説法に耳を傾けよう。仰ぎ願わくば本尊

聖者薬師如來並びに觀世音菩薩、衆庶が微喪を哀愍して此の法

しゅうしよ びちゆう あいみん

味を嘗なめ、威光を倍增して速やかに転禍為福の慈悲を施し玉へ

重ねて乞ふ。

山内安全 密教紹隆 家業繁栄 除災招福
福寿如意 乃至法界 平等利益

敬つて白す

令和二年二月三日

沙門 土口哲光